



敬老の日おめでとうございます。

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。今年は記録的な暑さとなり、体調を崩された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。気候が不順の際にはどうぞご無理なさらず、お体を大事にお過ごしになるように願っています。

今年の敬老の日の前日、9月20日の日曜日はマタイの福音書からぶどう園の労働者のたとえ話が朗読されます。その朗読箇所の後半は以下の通りです。

夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、「労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい」と言ったそこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。「最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは。」

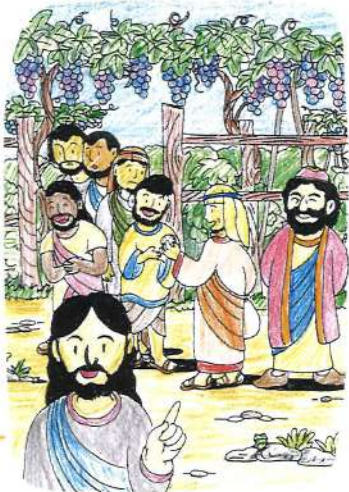
主人はその一人に答えた。「友よ。あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。私はこの最後の者にもあなたと同じように支払ってやりたいのだ。」

(マタイによる福音20章8～14節)

常識的には労働に対する賃金は働いた時間に基づいて支払われるべきです。しかし、ぶどう園に雇われることを神の国との出会いだと考えると、それは人それぞれであるということです。人生の早い時期に神と出会う人もいれば、人生の半ばで、あるいは晩年に神と出会う人もいます。晩年に出会った人は、雇われるのを待っていた人のように、神がそこに至る道のりを用意してくださったといえるでしょう。みなさんはいつ、どこで神と出会う体験をなさったのでしょうか。

イエスは「二人または三人がわたしの名のもとに集まるところには、わたしもその中にいる」と言われました。教会に来られなくても、場所が離れていても心をつなげて、すべての人がイエスの救いを喜び祝うことができるよう、ともに祈りしましょう。神は必ずわたしたちの祈りを聞き入れてくださいます。

敬老の日にあたり、みなさんのためにお祈りさせていただきます。



2026年 敬老の日
三重南ブロック モデラトール 柳本昭

